領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野Ⅱ	母性看護学 援助論演習	1	30	2 年次	10 月	髙松三穂子

授業概要

母性看護は、女性とその子ども・家族を対象とし、対象者の健康(とくにリプロダクティブへルス)の水準を維持・増進あるいは回復させるため、さらには疾病を予防するために健康生活を整える援助過程である。また、母性看護における看護過程を主要な看護技術と考え、その展開は重要である。そのため、ここでは、看護過程の展開方法と看護技術の特徴的なものについて学習する。

到達目標

- 1. 母性看護における看護過程の展開方法を理解する
- 2. 母性看護に用いられるおもな看護技術とその特徴、およびそれらの関連性を理解する

使用教材

- 1. テキスト
 - ①系統看護学講座 母性看護学〔1〕母性看護学概論:医学書院
 - ②系統看護学講座 母性看護学〔2〕母性看護学各論:医学書院
 - ③看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術;2015:メヂカルフレンド社
- 2. 参考文献等
 - ①佐世正勝/石村由利子編;ウェルネスからみた母性看護過程+病態関連図,第2版:医学書院
 - ②写真でわかる母性看護技術アドバンス:インターメディカ

評価 レポート課題 (看護過程展開・保健指導案)

授業計画

時間・回数	授業内容	方法
10 時間・5 回	1.母性看護学における看護過程展開	講義
	1)マタニティサイクルにおける看護の特徴	 演習
	2.ウェルネス看護診断の考え方	
	1)ウェルネスとは	
	2)ウェルネス看護診断とは	
	3.ウェルネス看護診断の展開	
	1)母性看護における対処把握(情報収集・アセスメント)	
	2)看護上の問題点の把握	
	3)看護目標の設定	
	4)看護計画の立案	
	5)看護実践・評価	
10 時間・5 回	4.情報収集・アセスメント技術	実技
	1)問診	
	2)フィジカルアセスメント (主なもの)	
	(1)妊婦	
	視診:下肢の観察(浮腫の有無など)、乳房・乳頭の形態	
	触診:レオポルド触診	
	聴診:胎児心音の聴取	

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野Ⅱ	母性看護学 援助論演習	1	30	2 年次	10 月	髙松三穂子
時間・回数			授業内容			方法
	計測診:	バイタル	/サイン測定	、身体計測・骨	骨盤計測、腹囲・	
		子宮底の)測定			
	内診、蹈	点床検査	(尿検査・血	L液検査等)		
	(2)産婦					
	視診:産	産婦の様子	<u></u>			
	触診:子宮収縮(陣痛)の状況					
	聴診:脂	台児心拍の)聴取			
	計測診:	: バイタル	レサイン測定	-		
	(3)褥婦					
	視診:悪	悪露の状態	は、乳房・乳	頭の形態		
	触診:	子宮底高・	一硬度、乳房	・乳頭の状態		
	計測診:	: バイタル	レサイン測定	-		
	(4)新生児					
	視診:外表奇形・外傷の有無、胸部、腹部、姿勢、四肢の					
	動き、活動性、反射、皮膚など					
	触診:頭部、胸部、腹部、背部など					
	聴診:呼吸の状態、心拍、腸蠕動					
	計測診:	: 身長、体	本重、頭囲、	胸囲など		
10 時間	5.母性看護に使わ	かれる看護	技術			講義
5 旦	1)基盤となる看	養技術				演習
	カウンセリ	リング技術	f、触診			実技
	2)女性の意思決	女性の意思決定を支える看護技術				
	自己決定権	権を保障す	トる情報提供	は、非指示的な	対応	
	3)ヘルスプロモーションのための看護技術 保健指導、健康教育 4)親になる過程および家族適応を促す看護技術: 育児技術 5)ストレス・不快症状・苦痛を緩和する看護技術 6)次世代の成長・発達を促す看護技術 生命力の発現と成長・発達を促す技術 生命力の消耗を抑える技術					
	*沐浴の実施においては、演習後技術確認を行う					
備考						

備考

- 1. 看護過程展開:産褥期・新生児期の事例を用いて行う
- 2. 母性看護技術演習内容: 腹囲・子宮底測定、レオポルド触診、胎児心音の聴取、乳房・乳頭の 観察およびケア、子宮底高・硬度、新生児の観察・諸計測、沐浴
- 3. 妊娠期および産褥期・新生児期における保健指導計画の立案を行う